総合医学会報告

2022年シンポジウム：小児医療の地域連携－選ばれるためには－

長崎医療センター小児科における地域との連携

青木幹弘† 本村秀樹 安 忠輝 本田涼子
末永英世 桑原義典 西口 亮 種岡飛翔
島崎 敦 山根友里子 大塚圭祐 石川太郎
石橋洋子 武田敬子 津野崎絹代

第76回国立病院総合医学会
2022年10月7日 於 熊本

IRYO Vol. 78 No. 1 (14－18) 2024

要旨 国立病院機構長崎医療センター（当院）は，長崎県のほぼ中央に位置する大村市に1942年海軍病院として発足した．現在の病床数は643床で長崎県央地区医療圏の3次救急医療施設であり，高度救命救急センターや災害拠点病院などの救急医療に特化した病院である．一方，高度総合医療施設として，地域医療施設との連携をはじめ，卒後医学教育拠点病院としての役割も担っている．

小児科は一般部門と新生児部門に分かれ，一般病棟はHCU 3床を含む28床，新生児病棟はNICU 9床，GCU 21床で運営している．スタッフは常勤医師10名，レジデント3名前後，非常勤医師7名，診療看護師（JNP）1名である．年間の入院数は一般病棟で年間1,300名前後，新生児で200名前後であったが，いずれもCOVID-19の流行後は減少傾向にある．外来患者数は年間14,000名前後で推移し，COVID-19流行後も大きな変化はなかった．当院小児科の連携方針は病院全体の方針を遵守する形で，24時間365日体制で紹介患者を断らないことに留意している．一方，地域の基幹病院として，地域での学会，勉強会，夜間センター運営などに積極的にかかわることも意識している．行政や教育機関との連携は当院の機能を最大限に利用することを留意し，主に連携室経由でさまざまな部門に参加してもらいながら情報共有を行っている．当院が関与している独自の地域連携としては長崎県てんかん診療連携ネットワークとあじさいネットがある．長崎県てんかん診療連携ネットワークはてんかん患者の医療だけではなく多様なライフステージに沿った支援を目的としている．あじさいネットはITを利用した医療情報共有を目指している．COVID-19感染拡大を受け，当院が重視してきた「顔の見える関係」が築きにくい状況であるが，さまざまな制約の中でできることを地道に行う必要がある．

キーワード 地域連携，小児科，長崎県

国立病院機構長崎医療センター 小児科 †医師
著者連絡先：青木幹弘 国立病院機構長崎医療センター 小児科
〒856-8561 長崎県大村市久原2丁目1001番地1
e-mail：aoki.mikihiro.sf@mail.hosp.go.jp
(2023年3月9日受付 2023年6月9日受理)

Collaboration with the Community in the Department of Pediatrics at NHO Nagasaki Medical Center

Mikihiro Aoki, Hideki Motomura, Tadateru Yasu, Ryoko Honda, Hideyo Suenaga, Yoshinori Kuwahara, Ryo Nishiguchi, Asuka Taneoka, Atsushi Shimasaki, Yuriko Yamane, Keisuke Otsuka, Taro Ishikawa, Yoko Ishibashi, Noriko Takeda, and Kinuyo Tsunosaki
NHO Nagasaki Medical Center
(Received Mar. 9, 2023, Accepted Jun. 9, 2023)
Key Words：collaboration with the community, pediatrics, Nagasaki prefecture